

Second Column



2024.1

動物と暮らす vol.52

楢橋さんと小豆くん

久留米の老舗和菓子店「楢橋梅月堂」のオーナー楢橋さんと小豆くん。「うちの後継です」と。小豆くんを息子のように可愛がり、家族の一員として大切にされています。名前の由来は和菓子の小豆から。キャッチボールやお手、おすわりなど芸達者でとてもお利口さんです。家族が帰ってくる時間になると、わかっているのかその時間には必ず玄関でスタンバイして帰りを待ち続けています(笑)家族想いで優しい小豆くんです。



小豆くん(7歳)

動物を飼うことは、動物の命を預かることです。正しい飼い方などの知識を持ち、飼い始めた、動物の種類に応じた適切な飼い方をして健康・安全に気を配り、最後まで責任をもって飼いましょ
●久留米市動物管理センター TEL.0942-30-1500

KURO's Time

vol.5

BLACK WAVE 店主 黒岩 公輔



BLACK WAVE (ブラックウェイブ)
久留米市日吉町14-22-3階
TEL.090-6003-1685 (黒岩)
info@blackwave.jp



1983年久留米市生まれ。日本の国技「相撲」に競技者・指導者・研究者として関わる。東京都立高校の政治・経済の教諭として10年間教壇に立ち、アームレスリング(腕相撲)部の顧問として全国大会の団体・個人戦で優勝に導く。2022年5月、久留米・文化街にミュージックカフェ「BLACK WAVE」を開店。明大中野中高相撲部主将、慶應義塾大学体育会相撲部主将、宅地建物取引士。

コーヒーとジャズ①

私はジャズのレコードを聴きながらの美味しいブラックコーヒーが大好きです。コーヒーとの出会いはまたしても3つ下の弟がきっかけでした。弟は大学に入ると経営学部で学びながらジャズのビッグバンドに所属。アルバイト先を探していたところスターバックスコーヒーが気に入り、アルバイトをしたいとなんと本社に電話をかけたそうです。本社での面接後に配属されたのは、スターバックス日本1号店の銀座松屋通り店で、2階建てのなんとも魅力的な店舗です。

それまで我が家の朝はテレビのNHK「おはよう日本」とあたたかい日本茶という組み合わせでしたが、コーヒーの薫りが漂いつつジャズが流れる朝へという欧米化を体感しました。それから20年。コーヒーの魅力にはまり、いつかはジャズ喫茶をやりたいと思うようになりました。

今月の1枚

齋藤京子トリオ「I Feel the Wind」

コロナ禍に久留米で録音された自然の雄大さや美しさを感じることできるタイトル曲「I Feel the Wind」や、ビートルズの曲をジャズアレンジした秀作などが収められている。録音が行われた久留米・文化街の名店「Vino & Dig」等で入手が可能。



サー
SARのUWANTANA飯
第四十六回
〔清水食鳥〕
八女市本町1-232-3
TEL:0943-22-3901

uwantana71



Happy New Year! 2024年の幕開けです。今年もよろしくお祈りします。皆さま、昨年度はどうでしたか? 今年「辰」の年。十二支の中で唯一、伝説の生き物です。はかり知れないパワーの持ち主です。そのパワーを感じつつ今年も皆さまにとって幸多き年になる事をお祈りします。

24年最初にご紹介するUWANTANA飯は八女グルメの代表です。清水食鳥の一本モモの唐揚げです。もう見た感じから、ガブリと行きたくなります。濃いめにしっかりと味付けされた唐揚げは、クセになる事間違いなしです。ぷりぷりな食感もまさに、UWANTANAな一品です。お店は、新鮮な朝びき肉が並ぶ鶏肉屋さんですが、一本モモ唐揚げの他に、チキンフラワーや、むね唐揚げ、チキンボール、むねみ、砂ずり、レバーなどの焼鳥もあります。その他には、皮の酢物や、セツが嬉しい、手羽先と手羽元の唐揚げセットなどおすすめがたくさんです。唐揚げまんさいのオードブルもあります。新鮮な朝びき鶏肉を求めて、日々沢山の方がご来店されています。八女グルメを代表する昭和29年創業の名物店の逸品。ぜひご賞味あれ。

Dr.わーだーの養生記

vol.57

「クマの1年は人間の1日」

こちいいん わだ とよみ
心臓病院 院長 和田 豊都



東日本を中心にクマが人里に出ています。クマは寒くなると食べ物なくなるため秋に食い溜めをして冬眠に入り、春に目醒めたら自分で食べ物を探さなければなりません。ですから冬眠に入る前には冬眠中だけでなく目覚めた後に動き回れるだけの養分を蓄えます。クマにはそういう知恵や知識があるわけではなく本能のなせるワザです。

現代人には肥満と戦っている人がかなりいるわけですが、余分に食べなければ、あるいはしっかり運動をすれば太らないことは知っていてもうまく行きません。人間は元々狩猟採集を行う動物です。食料を得るのに必要なエネルギーが残った状態で目覚めるのです。現代生活には保存食があります。狩猟採集に出なくても食べられるのです。このため朝食時にエネルギーが余ることになるわけです。冬眠に入る前のクマと同様、次の日に狩猟採集ができるよう日中〜寝るまでの間に食べるのは本能です。これを毎日続けているのですから太らないわけがありません。

■ 心臓病院 (こちいいん)

久留米市日吉町14-68 / TEL.0942-65-5129
診療時間: (月~土) 9:00~12:00
(月火・木金) 19:00~22:00
休診日: 日祝・盆・年末年始



家具屋の思い出話 (27)

「学生時代①」

Cozy Flat オーナー 仲 洋史



cozyflat5252



Cozy Flat
筑後市四ヶ所菅原田460-1
TEL.0942-52-3480
営:10:00~18:30
休:水曜、第2・4木曜

学生時代、下宿屋に住んでいた。下宿屋とは朝晩暗い付きのアパートみたいな家で10人位がそれぞれ3畳の部屋に暮らしていた。この南片江の下宿屋の住人は殆どが何某かの志望校に落ちてここにたどり着いた輩で、吹き溜まっていた。吹き溜まっていたが若いエネルギーとそこそこの知恵は持っていた。夕方飯を喰い、時間が余るとギターをかき鳴らす奴がいたり、プロ野球談議やらプロレス談議やら行われていたが、自然発生的に麻雀をする事が段々と習わしとなっていた。しかしコタツの麻雀は時間が経つと、とても疲れる。半荘4回もすると疲労困憊となる。そこで私はコタツを二段重ねにして麻雀台をすることを思いついた。椅子も用意した。この台が大ヒットで連日連夜麻雀に明け暮れた。疲れないのだ! 順番待ちとなり仕舞いには1軍・2軍とかできる始末だった。夏が近

づいたある日明日起きてみんなで買い物に行こうという話になった。食事を済ませざるぞろと玄関口に集まって出発した。朝日がきれいだった。幸せだった。「真つこときれいぜよ。」「ほんに美しゅうござす。」みんなそう思った。朝日が清々しかった。若さに任せて天下国家を論じる。皆にそんな勢いがあった。ワイワイガヤガヤ歩いていると1人がこういった。でもあれは…。あれは夕日じゃねえか? 何を言う! 天下を語るときに転覆を図るようなことを言うではないわ! みんなその思いで見つめ合った。各々が腕にはめたセイコーやシチズンの時計を見ている。6時だ。6時じゃないか! 安くて正確なCASIOのデジタル時計をはめてる奴が言った。いや! 18時だわ! われわれはこのところ毎日朝まで麻雀をし、学校にも行かず夕方まで寝る生活が続いていた。その日も同じように過ごししてご飯を食べて出かけたのだった。

全員が同じルーティーンで行動していると時間の概念が無くなるという人間のありようを学習させられる事件だった。よく見ると陽は明らかに沈んで行っている。全員が肩を落とし泣きそうな感覚になり、歩いた。とりえず買い物をして帰った事だけは覚えているが何を買ったのかは覚えていない。あれから朝までの麻雀は自粛するようになり、二段重ねの麻雀台は使わなくなった。でもあの雀台は最高だった。一段目には灰皿も置けたし疲れたら足も乗せられた。何より高さがダイニングテーブルと同じだったから椅子との相性がバツグンだった。一種の発明品だと自負していた。まだ真面目で幼い学生の一面も持っていた私にはほろ苦くていまだ忘れられない思い出となっている。そんな思い出と共に昭和は明らかに遠くなっている。

もりさんぽ

vol.62 「がんばる! 商店街」

ヒト・モノ・コト ツナグ研究所
商業活性 人材育成コンサルタント 久保 森住光
moribon0511



新年あけましておめでとうございます。辰年! 街全体が上り調子になることを祈る。新しい年の幕開けです。

昨秋から、多くの催事が実施されました。10月「くるめ楽楽国祭り」は、心地よい秋の空の元、たくさんのお客さまで賑わいました。11月は、「たまがる大道芸」が開催され、県外からも多くのお客さまをお迎えしました。12月には、「くるめ光の祭典 ほとめきファンタジー」や、「まちあるき クリスマスマーケット」で、歳末ムードを醸成いたしました。おかげ様を持ちまして、どの催事も好評を得ることが出来ました。御礼申し上げます。

そんな中、12月に一番街多目的ギャラリーで、商店街主催による「フリーダムマーチ その周辺展II」を開催することが出来ました。多様で多彩、多才なアーティスト7名による作品展。搬入から見ておりましたが、展示手法も豊か。ギャラリー空間に魔法がかかる! とは、言い過ぎではなく、本当に目を見張るものがありました。もちろん、展示作品も才能と個性にあふれる逸品ばかり。訪れたお客さまも、じっくりと、また、ゆっくりと詳細に観覧なさる姿が印象的でした。

この1年間に、(株)ハイマート久留米(まちづくり会社)様のご協力のもと、商店街との繋がりを求め、「周辺展」と称した企画展を2回実施することが出来ました。感謝申し上げます。中心市街地商店街は「ハブ」の役割を持つ場所。恒例となっている、「むつもん雑貨市」は、開催100回を超えました。JR九州久留米駅様の展示は、いつも子どもたちの笑い声が響きます。ありがとうございました。将来人口推計で久留米市は、2020年303,316人でしたが、2050年には260,912人との予測が、両年比較で86.0%と驚異的な下落が想定されています。久留米エリアの価値向上に更に取り組まなければならない。2024年も、「がんばる中心市街地商店街」でありたいと思います。



JR久留米駅展示



「フリーダムマーチ その周辺展II」